

# 会報

No. 80

平成21(2009)年11月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL (075) 762-4655

読書はアナログ的に！

京都府立植物園 園長 松谷 茂



世の中何かにつけ便利な方向に進んでそれはそれでありがたいのだが、便利になりすぎたきらいがある。この功罪はこれから時が経つにつれさまざまな場面でいろいろな影響が出てくるであろうと思う。私の子供の頃のこんな風になればいいなあ、でも絶対に実現しないだろうなあ、との空想が正に今の世の中実現し、電話などはもちろんそんなのがあること自体信じられない時代に育った者にとつては、ダイヤルを回さなくても良いし、歩きながら相手と喋ることが出来るし、いつでもパシャパシャと写真を撮ることも出来る携帯電話の時代となった現在、いろいろと考えさせられることがある。ケータイ小説というのがあって小説を携帯電話で読むことが出来る。女子高生などに大変人気らしい。全く否定するものではないが、

何故か、淡雪の存在のように思えて仕方がない。毛糸の手袋に降り落ちた雪、アツ雪や、この結晶綺麗や、冷たそう。その瞬間の存在感はものすごいものがあるのだが、しばらくすると消えてゆく。

今年、ダーウィン生誕二〇〇周年、「種の起源」一五〇周年。一時、進化論にかぶれその種の本を読みあさっていた時がある。今西錦司（一九〇二〜一九九二）こそ、日本のダーウィン、いやそれ以上の存在だ、と密かに感じ著書を読むのだが、難解というよりも理解の範疇を超える文章が多く、哲学の領域のように感じもした。とりわけ「生物の世界」、「生物社会の論理」は読みふけた方だが、読み始めた当時の知識のなさを思い起こすととても恥ずかしい。

カゲロウの棲み分け理論などは、現場の賀茂川での調査、しかも、毎日毎日の我慢強い忍耐と根気の中からデータを積み重ねた結果の成果であり、コンピューターの無い時代にあつて、今では想像できないほど、正にアナログそのものの研究だつたと思う。

行が進まない、彼に関する別の

著書を読む。お酒が大好き、なんとなくでも山に登る、など、読み進むにつれ、あたかも友達よろしく行動を共にしているかのような錯覚に陥る自分がそこに居た。

仕事柄「生物社会の論理」はときどき読み返すことがある。私の習慣として、その時、特に重要だと思つたフレーズに出くわすと、ラインを引くようにしている。鉛筆であつたりボールペンであつたり、時にはコメントも書き留める。時が経ち再びその部分に読み進んだ時、やはり一瞬目が止まり、若いときのある意味純粹であつた感性を思い出す。年輪を重ねるとはホントよく言ったもので、それはいろいろな意味での幅の広い経験が思考のプラスとなつているとの自己満足から、気恥ずかしいが怖いもの知らずの当時のコメントによくもまあこんなことを書いていたなあと思いつつ、だがしかし、若僧であつた自分の浅はかな考え方を許してしまう。さらにページをめくると、ぐんぐんと二十歳代のひたむきさにUターンし、近づいていく。手垢も紙のシワも気にならない、いやむしろ、そんなのがあるからこそ、あの独特の古い紙の香りの中で三十数年前の自分に会えた気がして嬉しくなる。

読書の醍醐味、それはいつもアナログ的。

# 京都市図書館のレファレンス

## 右京中央図書館を中心としたレファレンス体制

平成20年6月30日に開館した京都市右京中央図書館では、参考調査係を置き、豊富な参考資料、充実したIT環境により京都市のレファレンス機能の中心館として京都市各図書館のレファレンス業務をバックアップしています。

新たに作成した「スタッフマニュアル」から抜粋した内容と事例を1例ご紹介します。  
基本的な資料リスト・役立つサイト集もご紹介します。

## レファレンスの手引き

～「京都市図書館レファレンス・サービススタッフ・マニュアル」より～

### ①レファレンスの受付

#### 面談の場合

質問しやすい雰囲気を作り、わかりやすい言葉で正確に感じよく話す。メモをとって必ず内容を確認する。

#### 電話の場合

まず名前を名のり、質問事項を復唱しながらメモをとり、質問の要点を確認する。

#### 文書(FAX)の場合

文書(FAX)が着館した日付を記録し、1週間を目途に回答できるように速やかに調査に着手する。

### ②利用者が何を求め、どのような資料・情報を必要としているのかレファレンスインタビューにより正確に把握する。

★同音異義語や聞き取り間違いにも注意する

例 “館報”と“官報” “刺繍”と“詩集” など

★利用者の中には他の人の代理で調査を依頼される場合や、最初は大きな概念で質問するが、実際に知りたいのは具体的なことである等の例もあるので、受付の際のやり取りで的確な情報をつかむように努める。

例 “医学関係の本はあるか”→実際は“糖尿病患者の献立についての本”

利用者の質問が、自分の全く知らない言葉や事柄の場合でも、すぐに回答を断念するのではなく、インターネットや百科事典等でヒントを探す。あるいは他の職員に援助を求めるなどして回答できるよう努める。

### ③レファレンスの調査・回答

各図書館は自館の所蔵資料、信頼できるインターネット情報、レファレンス事例集等を駆使して、レファレンスに対応する。

#### ①

調査事項・調査過程等は、レファレンス処理用紙に記入し、必要に応じて交代者に渡し、引き継ぐ。

#### ②

面談や電話で即答できない場合(5分以上要する時)は、調査にかかる時間を想定し利用者に伝え、調査を続行するかどうか、やり取りをしながら見極める。

#### ③

調査・回答後、レファレンス処理用紙は解決・未解決にかかわらず職員全体で回覧し、次回からのレファレンスに活かし、事例として蓄積する。

### ～レファレンスに必要な基本的な資料リスト～

#### 【京都関係】

- ・京都大事典（淡交社）
- ・京都・山城寺院神社大事典（平凡社）
- ・京都府人物・人材情報リスト（日外アソシエーツ）
- ・角川日本地名大辞典26京都府（角川書店）
- ・京都市の地名（日本歴史地名大系27）（平凡社）
- ・京都暮らしの大百科（淡交社）

#### 【参考】

- ・日本大百科全書 全26巻（小学館）
- ・世界大百科事典 全31巻（平凡社）
- ・現代用語の基礎知識（自由国民社）
- ・世界年鑑（共同通信社）
- ・読売年鑑（読売新聞社）
- ・国史大辞典 全15巻（吉川弘文館）
- ・岩波－ケンブリッジ世界人名辞典（岩波）
- ・現代外国人名録（日外アソシエーツ）
- ・世界伝記大事典 全19巻（ほるぷ出版）
- ・講談社日本人名大辞典（講談社）
- ・最新世界各国要覧（東京書籍）
- ・六法全書（有斐閣）
- ・日本国勢図会（矢野恒太記念会）
- ・理科年表（丸善）
- ・日本国語大辞典 全14巻（小学館）
- ・広辞苑（岩波）
- ・大漢和辞典 全14巻（大修館）
- ・集英社世界文学大事典 全6巻（集英社）
- ・新潮日本文学辞典（新潮社）

「あぶらとり紙がいつ頃から使われるようになったのか調べたい。」という質問を受けました。京都のお土産と

**事例紹介**  
**質問**  
**「あぶらとり紙の歴史を知りたい。」**



### ～役立つサイト集～

- ★NDL-OPAC（国立国会図書館）  
→国立国会図書館の蔵書検索
- ★総合目録ネットワークシステム（国立国会図書館）  
→全国公共図書館和図書検索
- ★NACSIS Webcat（国立情報学研究所）  
→大学図書館の図書、雑誌検索
- ★Webcat Plus（国立情報学研究所）  
→Nacsis Webcatの発展したもので、内容からも検索できる
- ★雑誌記事索引（国立国会図書館）  
→雑誌の論文名から検索ができ、掲載雑誌がわかる
- ★児童書総合目録（国際子ども図書館）  
→児童書のあらすじから検索
- ★絵本ナビ（絵本出版社100社の協力による公認絵本ポータルサイト）  
→作品名、作者名、出版社名から検索。内容紹介、表紙あり
- ★Books.or.jp（日本書籍出版協会）  
→入手可能な国内発行書籍の検索
- ★レファレンス協同データベース（国立国会図書館）  
→レファレンスの質問と回答の事例

して人気がある、顔の皮脂を押さえるのに使う、あの（あぶらとり紙）です。紙、化粧道具、雑貨…どこから調べようか、キーワードをいろいろ考えてみます。

すぐに的確なキーワードが思い浮かばないときや、調べものの取っ掛かりとして便利な百科事典類をまず見てみることにしました。『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）。日本のモノに関することなので『国史大辞典』（吉川弘文館）、『日本民俗大辞典』（吉川弘文館）、京都にも関係があるかなと『京都大事典』（淡交社）などで、（あぶらとりがみ）と引いてみます。見出し項目としては載っていません。念のため、巻末の索引も見てみますが（あぶらとりがみ）では載っていませんでした。

さて、ではどうしようか。

京都であぶらとり紙といえば、まず思い浮かぶのは今や観光客に大人気のお店「よーじや」さんでしょうか。そちらの方から調べたら、何かわかるかもしれません。京都の雑貨や小物が紹介されている資料にあたってみることにしました。

『京都 和こもの帖』（中井忍／文山と溪谷社）、『京都の値段』（柏井壽／文芸春秋）、『京都優品』（京都府・京都デザイン協会／編集・発行）に、「よーじや」の（あぶらとり紙）について載っていました。これらの資料によると「よーじや」の（あぶらとり紙）が誕生したのは大正時代、映画撮影現場の役者さんの肌の手かきをさえるためにと要望があったのがきっかけとされています。また（あぶらとり紙）の材料は金箔を打ちのばす時に使う和紙で、古来より上流社会の女性や粹人に珍重されてきたと書かれています。

『舞妓さんのお道具帖』（相原恭子／文芸春秋）にも「お道具でひもとく雅の文化 油とり紙」として「金竹堂」さん、「左り馬」さんの（油とり紙）についてのお話が載っています。この資料によると、昔は、顔の脂がさらりと取れることから（風呂屋紙）とも呼ばれていたそうです。

ここまでの調査で、あらたに金箔、風呂屋紙というキーワードを得ることができました。そこから『日本の金箔は99%が金沢産』（北國新聞社出版局／編 時暁舎）、『金沢の手仕事』（坂本善昭／文芸春秋）を見ると、使い古された箔打ち紙は（ふるや）と呼ばれ、皮脂の吸収力に優れた化粧直し用に重宝されたと書かれています。また、（風呂屋紙）で調べると『角川古語大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）などに、近世後半より遊女などが用いた顔の脂取りの紙と説明されています。

これらの調査から、（あぶらとり紙）がいつ頃から使われ始めたのか明確にはわかりませんが、すでに江戸時代には（風呂屋紙）とよばれるものがあぶらとり紙として使われていた、と回答することができました。

# 第十八回 京都図書館大会報告

第十八回京都図書館大会が、九月二日(水)、同志社大学寒梅館ハーデイーホールにおいて、「新たな発想・視点からこれからの図書館像を探る」をテーマに一〇八名の参加を得て、開催されました。

午前中は特別報告①として、金沢21世紀美術館の秋元雄史館長より「開かれた美術館 地域と共に歩む金沢21世紀美術館の活動」と題した講演があり、「まちに開かれた公園のような美術館」をコンセプトに建設された美術館での「ミュージアム・クルーズ」などの教育普及活動や、「若者夢チャレンジ・アートプログラム」といった交流活動の取り組みの紹介がありました。

また特別報告②では、京都府立植物園の松谷茂園長が、「打って出る植物園! アカデミックさとそれを生かしたエンターテインメントとの両立」と題して講演され、来園者が楽しみながら知的好奇心を満たすことのできるサービスを積極的に展開することにより、実績につなげる取り組みについて報告がありました。

午後は館種毎の事例発表があり、鳥取大学医学図書館の森田正氏より、県内の多くの図書館と協定を結び発展してきた相互協力について紹介し、館種が異なる図書館が協力しあうことによ

り、互いのメリットを活かした事業を展開し、地域にも貢献することができている現状について説明されました。続いて、奈良県立図書情報館の乾聡一郎氏より、ニーズを創りだす図書館、文化発信の主体となる図書館を目指し、人と人との交流により新たな可能性を引き出す場となるような様々な取り組みについて報告がありました。

また交流協議では、活発な意見交換が行われました。終了後のアンケートでは、「異業界の取組み事例や、これまでの概念にとらわれないサービスを展開している図書館の事例を知り、大変参考になった」などと大変好評でした。

## 専門委員会ニュース

### ◎研修研究委員会

七月三日の第一回委員会の協議に基づき、各ブロックで実務研修会の開催に向けて取り組んでいます。多くの方々のご参加をお待ちしています。

### 北部会場

平成二十一年十二月十日(木)

午後二時～四時

場所 みやづ歴史の館 大会議室

講師 福岡県宮若市教育委員会図書館準備室 白根 一夫氏

テーマ 「高齢者サービスをひろめよう」

「高齢者サービスをひろめよう」  
図書館をめざして」

### 中部会場

(読書ボランティア養成支援事業)

平成二十一年十一月二十日(金)

午後一時半～四時半

場所 キャンパスプラザ京都

講師 元京都文教短期大学准教授 北川 喜美子氏ほか

テーマ 「語り継ごう!京の民話・

わらべ歌」京の伝承の担い手と図書との架け橋」

### ◇南部地区実務研修会の報告

十月八日(木)に「ブックトークはじめの一步」をテーマに十八名の参加を得て、久御山町ふれあい交流館ゆうホールにおいて開催しました。講師の城野裕紀子氏がまず、小学校中学年向けのブックトークの実演をされ、ブックトークは読み聞かせやストーリーテリング以上に幅広い図書を子どもたちに紹介できる魅力があると話されました。テーマや図書の選び方などの講義の後、実際に参加者がブックトークに使うための図書を図書館で選んで発表し、実践のための技術を学ぶことができた研修会となりました。

### ◎相互協力委員会

相互協力実務担当者会議は、平成二十二年三月の開催を予定しています。

### ◎広報委員会

平成二十一年九月四日(金)に京都府立総合資料館で第二回広報委員会を開催し、会報八十号の編集等を協議しました。

第八十号は予定どおり十一月十五日発行とし、作成日程、分担を決定しました。

また、第八十一号(三月十五日発行予定)発行のための第三回広報委員会を平成二十二年一月七日(木)に開催することとしました。

委員会終了後、京都府立総合資料館の委員の案内で館内を見学させていただきました。

## 編集子

今年の九月に行われました第十八回京都図書館大会では「新たな発想・視点からこれからの図書館像を探る」をテーマに開催されました。

特別報告では「開かれた美術館」打って出る植物園」と言ったお話がありました。これからの図書館サービスを考える上で、美術館や博物館等の様々な機関の取組や連携は、今までの既成概念にとらわれない新たな発想や視点で物事を考えるきっかけになるのではないのでしょうか。